〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町 2-13-1 森田ビル3F

URL http://www.cskobe.com/

E-MAIL info@cskobe.com

発行人:中村順子 編集人:飛田敦子



緊急! 東灘見守りホットラインを立ち上げ

(トータルケアシステム推進協議会 代表幹事/CS神戸 理事長)

私たちの暮らす東灘区において、8月・9月の2ヶ月間に、高齢者夫婦が自宅で相次ぎ死後発見されました。 お隣の芦屋においても同様のできごとが 2 件続きました。このような事態に接し、震災の教訓が活かしきれて いないことに心を痛め、まだ暑さ残る9月いっぱいだけでも、24時間体制の電話ホットラインを開設し、「ち ょっと気がかりなご家庭」への見守りをしようと、「トータルケアシステム推進協議会」の取り組みの一環とし て「緊急★東灘見守りホットライン」を立ち上げました。実施期間は、9月21日(火)から30日(木)まで の10日間で、新聞記事とトータルケアシステムの会員を通じた広報でお知らせしました。

結果は、受付件数6件で内訳は、安否確認1件(入所中の息子から、2ヶ月間、母親と連絡取れないので確 認してほしい)、・情報提供依頼3件(介護施設への入所情報などどこの誰に相談すればいいかの問合せ)・調査 依頼 1 件(近隣の騒音に関して、サービス会社が1月前に調査にきたが答えがないので追跡調査依頼)・家庭内 の愚痴1件(家庭内の母娘間の感情のもつれの吐露)であり、緊急性のあるケースは1件のみでした。

対応は、安否確認に関しては社会福祉協議会の協力を得て確認し、依頼者に通知ができ、他のケースについ ても30分程度のていねいな傾聴に徹し適切な情報を提供した結果、すべて解決し感謝をいただきました。

この取り組みから見えてきたものは、1つに、 身近な生活の場面でなにか起こればたとえ少しの アクションでも"出来る人が出来ること"を行い、 必要に応じて出動するような文化を市民が創るこ と。2つには、6件とも事案に関する専門者がい ましたが、近すぎて相談しにくいなど、都会の匿 名を考慮した相談のあり方や縁のつなぎ方に対面 以外の工夫が必要であること。3つには、問題を 抱えた人は常に不安にさらされており、物事を判 断する際に納得のいく複数のアドバイスつまり相 談のセカンドオピニオン制度が必要ではないか、 4 つには、行政と民間の協働がすばやい対応につ ながり、改めてこの関係性が重要であること、等 を感じました。

行政任せだけではなく協働しながらも、市民と して多角的で多様な助け合いの視点を常に持ち、 何かあれば手を上げ、容易に行動につなげられる 文化を定着させることが、被災経験者の役目であ ると再認識させられた取り組みでした。

第18回 CS神戸 夏のスタッフ研修を実施

去る9月20日(祝)、第18回目となるスタッフ研修 を開催しました。役員5名(中村、坂本、石川、金芳、 松下)とスタッフ8名(国枝、兵頭、梅木、村上、狩野、 小林、朴、飛田)が参加し、進行は星野トータルアドバ イザーが務めました。役員、シニアスタッフ、ユースス タッフの3グループに分かれ、今年15周年目を迎える CS神戸の向こう3ヵ年の事業計画について、熱い議論 が交わされました。(この研修内容とその後の取り組みに ついては次号以降、15周年記念事業と併せてご報告して いきます。)







2010年度 前期 市民活動サポート基金

~2団体の助成金交付を決定しました~



10月12日(火)、市民活動サポート基金審査会が開催されました。今年度の第1回目となる今回の審査会では、2団体に交付が決定されました。事業報告を行ったNPO法人市民後見ひょうごとあわせてご紹介します。

団体名:つむぎ

代 表:清水 愛孔子さん

事業名:障がい児の地域定着強化事業

助成額:150,000円

「つむぎ」は、さまざまな子どもたちが地域社会の中で見守られながら育つことを応援する学童保育事業を中心に、地域交流のためのプログラムにも取り組んでいる団体です。学童保育所には障がいある子どもも含め現在 25 名が通い、ともに放課後を過ごしています。

メンバーは神戸大学サテライト施設「のびやかスペースあーち」でのボランティアを通じ、想いを共有した仲間を中心に地域住民や学生が参加しています。また障がい児をかかえ、働く環境が整わない保護者も働けるような仕組みも実践に移しています。

助成金は、障がいがある子どもも安心して過ごせる居場所と感じられるよう学童保育所の環境を整えるための特殊玩具の購入を予定しています。また学童の対象から外れる障がいある中学生が継続して地域との関わりを持てるよう、地域の商店街などで長

期的に就労体験をする「ぷれ ジョブ」事業を計画しており その事業創設のための資金と しても活用される予定です。



団体名:NPO法人わだち

理事長:光武 茂さん

事業名:障がい児誰もが参加できるプログラム開発

助成額:180,000円

立ち上げのきっかけは、ヘルパーとして活動していた頃、障がい児の保護者の方たちからの「制度外サービスを利用したいけれども、高額で実際には利用できない」という声に応えたい、という想いからでした。訪問介護や移動支援と組み合わせながら、障がい児が安全かつ安心・充実した放課後を過ごせるよう「レスパイト事業(放課後・余暇活動支援)」を行っています。この放課後・余暇活動では子どもたちが、ともに学び、ともに遊べる場を提供するとともに、保護者の方たちの心労を軽減し、ゆとりをもった生活を送る一助にもなっています。

現在、従来のレスパイト事業とは異なり、「療育」 という視点からアプローチする、体操と音楽をテー マとしたプログラムを準備中です。市民活動サポー

ト基金は、子どもたちの様子を記録に残し、に活かすために必要なビデオー式やデジタルカメラなどの備品の購入にも活用されます。



団体名:NPO法人市民後見ひょうご 理事長:岡島貞雄さん 事業名:「成年後見制度普及活動および市民後見人養成事業」

助成額:100,000円

報告団体

"市民による市民のための後見"の実現化に向けて取り組む市民後見ひょうご。市民活動サポート基金を活用し、成年後見制度について分かりやすく解説した冊子を作成しました。この冊子は大変好評で、制度普及の一助となる効果が得られ、また、広報に力を入れた市民後見人養成講座は予想を大きく上回る受講生が集まったとの報告もありました。今後は、「人の一生にかかわること」との認識のもと、慎重さを持ち合わせながらも、少しずつ実際の受任活動にも活動領域を広げていきたい、との展望もあわせてご報告いただきました。





JR住吉駅前駐輪場



一接客サービスを学ぶ内部研修を実施一

去る9月16日、小ホールと駐輪場の合同で接客サービス研修をCS神戸にて行いました。講師にお迎えしたのは、(財)神戸ファッション協会の田ノ岡義純さん。田ノ岡さんは、大手靴メーカーのお客様相談室で長年ご勤務された経験を持つお客様対応のプロです。駐輪場・小ホールのスタッフを合わせて計16名が参加しました。

主な内容としては、接客の心構え、接客での言葉遣いなどで、特にクレーム対応については、かなりの時間を割いて、お話いただききました。

特に印象深かったのは、以下のような点でした。

- ①クレームはお客様からのプレゼントである。
- ②お客様からのクレームには、先入観を持たず、白紙の 気持ちで受け止める。
- ③駐輪場や小ホールなどの職場は、お客様に対してサービスをする舞台である。仕事が終われば、一般消費者に戻るのだから、気持ちを切り換えてクレームを受けた時のネガティブな気持ちを引きずらない。

参加者のアーケントを見ると、「自分の日々の生活に於いて手元に置き、人生の指針としたい」、「今迄にこの様な研修を何回か受けましたが、今回が一番現実に沿った内容でした」、「今後の人生の励みにしたいと思いました」などという意見が多く、今回の研修が好評だった事がうかがえました。

現在、駐輪場では、お客様より、「他の駐輪場では、窓口で券を渡すだけだが、ここ(住吉)は、スタッフが直接、券を貼ってくれるし、挨拶もしてくれて、とても気持ちが良い」というお言葉を何度か、頂いた事があります。このようにお客様には、気持ち良くご利用頂いていることと思いますが、今回の研修を機に駐輪場のスタッフー丸となって更なる接客サービスの向上に努めていきたいと思います。



いつも笑顔の 田ノ岡さん





(JR住吉駅前駐輪場: 朴京守)

東灘区民センター 小ホール



--アートマネジメントに関する自主勉強会を開催-

去る2010年7月12日(14:00~17:00)に、

「アートマネジメントを学んで事業とする」勉強会を 開きました。講師は、神戸 大学でアートマネジメント を講じる齋藤光國さんです。



講師の齊藤光國さん

齋藤さんは文化律難合同会社を立ち上げ、この4月から日本管財㈱と共同企業体を組み神戸市立灘区民ホールの指定管理者となりました。なぜ灘区民ホールの指定管理者となり、理想の文化ホールづくりを目指すのか?その手法を細かくこれまでの経験や実績に基づいて、現場の立場から語っていただきました。

若くて熱意はあるが、経験の少ない人も自分たちがその気になれば、文化ホール指定管理者になれる、そして市民の立場に立った文化ホールづくりを全国にネットワーク化(構築)していきたい、とお話くださいました。また、条例を熟知されていて条例の壁を破ることの出来る、文化ホールの指定管理者制度についても非常に多くの情報量をお持ちでした。特に印象に残ったのは 6W2H に基づく考え方でした。

なぜ 理想の文化ホールを目指し、地域に貢献

何を 指定管理者になり、文化ホールを運営

誰が 個人や地方アート関係者が共同体を組織

いつ 地域文化ホール指定管理者公募時

どこで 文化ホールを中心に、地域で

誰に 地域と住民と実演者に

どのように 運営で利益は求めない共同体を組織

いくらで 指定管理者+利用料金+α

今後、一般的に指定管理者の選定基準については、「一期目のコスト重視から、二期目はサービス重視にシフトする」との見方から、利用者へ提供するサービスを計画し、そのホールの持つ特徴を生かして出来ることを、地域の方々と「つなぐ」役目を果たしていかなければならないと思いました。現在、「イベント」の基本的な考え方を身につける為に、自ら「する」「みる」だけでなく、「関わる」「支える」立場としてアート・舞台芸術マネジメントの基礎や舞台技術(舞台・音響・照明)の基礎、そして音楽公演のマネジメントとして企画からチケット発売、リハーサルから終了までの流れを実習として学んでいます。

(東灘区民センター小ホール:兵頭修也)



生きがいしごとサポートセンター10周年記念 「幸せな働き方を考える」合同フォーラム開催

PR冊子無料配布中!!

生きがいしごとサポートセンターは、2000 年に 兵庫県が創設し CS 神戸が受託して以来、今年で 10 周年を迎えました。それを記念して、現在県内で活動 する6ヵ所のセンターが、8月21日(土)に神戸市勤 労会館で「幸せな働き方を考える」をテーマに合同フ ォーラムを開催しました。



第1部は基調講演、テーマは「地域 も人も幸せになる働きかた、起業のし かた」、講師はベストセラー「日本で いちばん大切にしたい会社」の著者で 法政大学大学院教授の坂本光司さん でした。

「会社の使命と責任は、5人の幸せを実現するこ と。5人とは、大切な順から、①社員とその家族、② 外注先・下請企業の社員とその家族、③顧客、④地域 社会・地域住民、⑤株主であり、5人が幸せと感じた 組織は業績が高まる」という氏の考えは、多くの聴講 者の賛同や感動を呼びました。

第2部は、各生きサポが推薦するコミュニティ・ビ ジネス(CB)6団体からの代表と、コーディネータ -のCS神戸中村理事長によるパネルディスカッシ ョン。「CBの楽しさ・面白さと可能性」をテーマに、 熱っぽい話題が飛び交いました。

フォーラムには、炎暑の中、280 人にご参加いた だきました。これをきっかけに、地域社会に貢献しな がらの働き方が増えていくことが望まれます。

6センターは合同で、PR冊子「生きがいしごとへ のガイドブック」(A4 版 12 ページ) を発刊しまし た。生きサポの機能や沿革、目指すこと、CB 起業・ 就業事例などに加え、基調講演の論旨抜粋も載せてい ます。ご希望の方には無料で差し上げますので、ワラ ビーまでお申し出ください。



(生きがいしごとサポートセンター神戸東:村上義弘)

第14期 NPO大学が開講!



~今年度は、神戸、北播磨、川西で実施します~

今年で14回目となるNPO大学は、昨年に引き続き本 校とサテライト校と2本立てのプログラムとなりました。

本校の対象は中間支援組織のスタッフ。22名にご 参加いただきました。1コマ目はCS神戸のトータル アドバイザーでもある星野裕志氏(九州大学大学院経 済学研究院教授) による講義「NPO·中間支援組織の 役割」。続いての講義は、當間克雄氏によるSWOT分 析とBSC(バランス・スコア・カード)。NPO大学 ではおなじみの手法です。SWOT分析とは、組織の 内部環境である強み(Strength)、弱み(Weekness)、 外部環境である機会(Opportunity)、脅威(Threat) を分析し、客観的に組織の現状を知ることができ、「ス タッフ間の課題共有に有効だった」、「事業計画を立て るにあたって、スタート地点の確認ができた」といっ た声が多く聞かれました。

SWOT分析で課題を 抽出した後は、いよいよ BSC。①財務、②顧客、

③業務プロセス、④学習



数値目標を設定し、実行可能な戦略を立てていく手法 です。同一団体から複数名で参加してくださった方が 多く、あーでもない、こーでもないと、議論を重ねな がら数値入りのBSCが完成していきました。2日間 の講座終了後には、参加者有志による交流会も開かれ、 夜遅くまでワイワイと盛り上がりました。

今年度のサテライトは北播磨(小野市)と阪神北(川 西市) にて 10 月末に開催します。本校と同様にSW OT分析、BSCを軸に、ダイジェスト版で実施予定 です。新たな出会いを楽しみにしています。



(支援事業セクション:飛田敦子)



ふるさとCB創出支援事業

一インターン生3名が修了し、新たに2名を迎えました一

2010年9月30日でインターン生3名(岸千尋さん、和田聖士さん、木幡幸雄さん)が卒業して、10月1日から藤久保幸輝さん、橘英志さん2名が加入しました。リフォーム・間伐材利用の「便利工房―K」、篠山での農業「和田農園」、そして西宮で「カフェバー」(店名はカフェ・オフツェ)開設と多様なCB起業で自立していきましたが、新人2名も農業と林業でのかかわりを持ちすでにかなり実績を積んでいる優秀なインターン生としてCS神戸の仲間入りです。修了したインターン生3名とは、相互に共に学び合ったことをより多くの人に伝えていくために、ネットワークを構築し、起業や就業の機会を提供するCB活性化を図ることを目的とした「ふるさとネットワーク」を締結しました。今後も継続的につながっていきます。

三宮勤労会館にて9月23日(祝)に、兵庫県有機農業研究会理事長の本野一郎さんを招き、「地域が支える食と農」と題して、交換経済・自給経済の復権で持続可能な仕事を作り出すシンポジュウムを開催し、10月2日(土)に、篠山市チルドレンミュージアム元館長兼アルパック計画主査の森岡武さんに「まちづくりの変革点」



と題して、田舎が誇りに変わる時、土地の神様を味方につけるコツをお話いただきました。その後も10月16日(土)には篠山市大芋で自給農を実践している長田明彦さん、10月30日(土)は、丹波市に1ターン移住したウッズ代表の能口秀一さんに「森林資源の循環」について、そして、11月13日(土)は丹波市市島町のあいたん倶楽部岩元清志さんの「1ターン移住で新規就農」のお話をしていただく予定です。起業を志す人たちがCS神戸で学んだり、「ふるさとネットワーク」を通じて先輩諸氏たちから学ぶことを合致させて、阪神地域と丹波地域との架け橋がより密接な充実したものになることを願っています

(ふるさとCB創出事業:国枝哲男)

インターンの修了に寄せて・・・

早いもので、CS神戸にお世話になり9ヶ月が経ちました。コミュニティビジネス創出支援・インターン生として、開業に必要な様々なご支援を頂きまして、誠にありがとうございました。この9ヶ月間で得たネットワークをフルに活かして、自営業"便利工房ーK"として、皆様に喜ばれる仕事をさせていただける様に努めてまいります。「木」をテーマに木工教室からリフォーム工事まで、何でも、ご連絡頂ければ幸いです。今後ともご支援の程、宜しくお願い申し上げます。9ヶ月間お世話になりありがとうございました。(木幡幸雄/便利工房ーK)



農業のこと、森林のことなど見ること聞くこと毎日が新しい日々でした。「美味しい野菜を作ってくれる生産者さんに出会うきっかけになればいいな」という気持ちから、安心で美味しい野菜を作ってくれる生産者の想いを伝えられる店作りを目指すようになりました。そしてついに 11 月 5 日、「カフェ・オフツェ」のオープンが決まりました(JR 西宮駅からすぐです)。野菜のことも生産者さんのこともまだまだわかっていませんが、これからも時間をかけて学びたいと思っています。根気よくご指導いただき、たくさんの人に会わせていただきましたCB事業創出支援のリーダー、インストラクターはじめCS神戸の皆様ありがとうございました。同じインターン生の皆さん、心強かったです。そして今度は私も何かお役に立てるようになれたら嬉しいです。ぜひカフェにもお立ち寄りください。(岸千尋/ カフェ・オフツェHP http://cafeovce.web.fc2.com/cafe.html)

1年4ヶ月間、ふるさとCB創出支援事業に携わらせて頂きました。支援する側がいつしか丹波・篠山の地域と農業の魅力に惹かれ、私が就農する為の支援を受ける側になってしまいました。まだ道半ばで、多くのスタッフに支えられてその入り口に立った所でCS神戸を卒業することになりました。感謝の気持ちをいつまでも持ち、CS神戸のネットワークが広がる様今後もその一員として頑張る決意です。(和田 聖士)





インターンの開始にあたって・・・

初めまして、十月から新しくインターンとしてお世話になる藤久保幸輝です。篠山市在住で、地元農産物を使った食堂を開くのが目標です。現在は地元の特産物を集荷、販売しながら開店に向けて活動中です。この場所で勉強さして頂く事で、ふるさと篠山の魅力を皆様に伝える力を身につけ阪神間からも沢山の人に足を運んで頂き満足して貰える場所を作りたいと思っています。(藤久保 幸輝)

私は、最近は商業施設建築の監督業に携わって参りましたが、ログハウスを建てていた経験が長くあり、現在の新建材中心の建築に疑問を持つようになっていました。そんな時に、CS神戸さんと出会い、考えていた夢を実現出来る機会を頂きました。これから、住環境から広がる様々な可能性を模索しながら、社会に貢献できるように活動をしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。(橘 英志)

退職のご挨拶

2010年9月末で4名の方が退職されました。丸6年の間、所属した様々な部署の支柱的存在だった梅木さん、介護サービス公表事業のスタートアップを支えてくださった中山さん、生きサポ事業で多くの就業相談に携わっていただいた辻井さん、塩路さん。皆さまお疲れでした。ありがとうございました。(事務局より)

梅木利恵(うめきりえ)



都市計画に携る企業を飛び出し、真にひとの心を大切にする地域のまちづくりに関わりたいと NPOの世界に入りました。途中、3ヶ月半の北アルプスの山小屋生活も含め、思えば今まで、本 当に自分のやりたいことをやれる機会に恵まれました。

大きな野望を抱いたことはありませんが、コツコツとできる限りのことを尽すことで、確実に自分の夢を叶えることができたことをありがたく思います。

いま、CS神戸を旅立つことになりましたが、これもまた私の夢のひとつであった"暮らしたかった憧れのまち"で新生活を実現するチャンスの到来です。

次なる夢は、自分自身が新たな風となって"大好きなまち"の活力再生の一助になることです。 今までありがとうございました。またお会いできる日までお元気で…。

中山初枝 (なかやまはつえ)

1年数ヶ月の間、多くの方々に大変お 世話になり感謝しています。「NPO」と いう新しい集団が「地域又は日常の問 題の解決」という意識のもとに発生し、 今後のあり方、とくに「継続性」について 模索を始めたこの時期に、CS神戸とい う一つの集団を内から観察ができた事 は私にとって大きな考える材料をいただ く事となりました。先例のない新しい集 団が良い方向へ向かって進んでいく為

にも、市民一人一人が 感心を持って見つめて いく事が大切のように 感じています。



辻井順子(つじいじゅんこ)

就労支援!CS神戸のグラウウンドをお借りして1人でも多く円満にマッチングすることを仕事に出来きた事を誇りに思います。ご相談者の笑顔を見たくて、あっという間の一年でした。活動を通しての出逢いが自分への糧となっている様に思います。経験を活かし、また、人のお役に立つこと、そして笑顔が見たいと思うような活動をしていると思います。皆様のご多幸を祈りし、お礼のお言葉に

変えさせて頂きます。 本当にありがとうござ いました。



塩路晃二郎(しおじこうじろう)

半年の短期間ではありましたが、地域コミュニテイの沢山の方々と出会う機会に恵まれ、多様なライフスタイルに接し貴重なお話を聞きながら就職活動の相談にのることが出来ました。求職者は自分の「やりたいこと」「出来ること」を理解し希望に合った働き方を求め、我々は事業所を訪問し、その人の希望に合った職場を探し回りました。人生のピンチに遭遇した人が就活のチャンスに恵まれ、仕事をゲットで

きた時には本人の喜び はもちろんのこと、我々 にもその喜びを分けて もらいました。





入職のご挨拶

岡本雅士 (おかもとまさじ)/生きがいしごとサポートセンター神戸東 相談員

雇用形態によって差はありますが、「仕事を探す」ことは「自分の人生を探すこと」だと思います。遺伝的な資質も、生まれ育ってこれまで歩んできた環境も人それぞれです。相談に来られた方と一緒に、焦らず、試行錯誤しながら、その人らしさを大切にしつつ、歩いていきたいと思います。当センターで直接に扱っている求人案件だけでなく、ハローワークや他のオープンになっているものを含めて、幅広くお手伝いしたいと考えています。



今井昭夫 (いまいあきお)/生きがいしごとサポートセンター神戸東 求人開拓

10 月からお世話になります。かつて「書を捨てよ、町へ出よう。」と体験の重要性を語ったのは寺山修司だが、就業拡大の仕事では求人企業を求めて「町へ出る」ことは必須の要件です。一方、求職依頼で事務所に来所される人には、のっぴきならない事情と思いがある。狭い経験と「書」から得た浅い知識ではあっても、求職者に適切な助言を与え元気付けるのも私の仕事のもう一方の極です。すると、「書を持って、町に出よ」というなんともしまらないスローガンになってしまうが、それで良し。いざ、行かん!



森本啓子 (もりもとけいこ)/トータルケアシステム・介護サービス公表事業 事務局

10 月より、介護サービス情報の公表調査事業、NPOサービスセンター担当スタッフとして仲間入りしました。公表制度は、人間が人間らしく自立した生活をする為の大切な仕組みだと思います。医療・介護の分野で、利用者やその家族、関係者のお役に立つ仕事が出来るよう精一杯努めて参ります。ご指導よろしくお願いします。

植木秀子 (うえきひでこ)/トータルケアシステム・介護サービス公表事業 事務局

10月よりお世話になっております。まだ数日間の勤務で不安だらけの日々ですが、CS神戸の皆さんは、暖かくパワフルで、とても良い影響を与えて頂いています。「NPO法人」「介護サービス」の事に関して、全く何も知らない新人ですが、1日も早く戦力になれるように努力して行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

食事サービスセミナー in ひょうご 予告!

「健康長寿のための食の手立て」

~要介護の高齢者にならないために~

第1部 基調講演 熊谷修氏(人間総合科学大学教授) 高齢者の老化遅延に有効な食生活手段を開発。

「介護予防・栄養改善事業」の草創者。NHK総合「ためしてガッテン」ゲストスピーカーとしても出演。

第2部 活動の現場から

「食事サービス提供団体の現状と課題」

県内で食事サービス事業を行っている団体の現場 の声をお聞きします。

日時 2010年12月4日(土)13:00~16:30(12:30 開場)

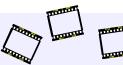
場所 神戸市勤労会館大ホール(各線三宮駅徒歩3分)

定員 300名 費用 500円

主催 全国食事サービスセミナー in ひょうご実行委員会 お問い合わせは・・・トータルケア推進協議会事務局・CS神戸

TEL 078-841-0323 担当: 小林、森本、植木

フォトギャラリー



2010年8月27日(金)第2@東灘NPOフォーラム



2010年9月28日(火)スタップ観送迎会





コミュニティ・ビジネス先進事例 秋の日帰りバスツアー



高齢者、障がい者、外国人、子ども、雇用・・・、社会には多様な課題があられています。様々な課題にビジネス手法を用いて、解決をめざすのが コミュニティ・ビジネス。今回はそんなコミュニティ・ビジネスの先進事例をめぐる日帰りバスツアーです。皆さまのご参加をお待ちしています!

日 時 2010年11月17日(水)9時30分~16時30分

集 合 住吉神社前(JR住吉駅下車南西へ徒歩2分/2号線沿い)

定員 20名(先着順)

参加費 3,000円 (おいしいランチ付)

<≪ 視察先 ≫>

- ①ようしょう会(農業・地域活性化)
- ②NPO法人サポートセンター木立 (障がい者・地域交流)
- ③一般社団法人クルレ(子ども・アート・心のサポート)
 - ★ 旬の採れたて野菜の買い物ができます。
 - ★ 喫茶で手作りランチをいただきます
 - ★ バスの中でCBについてのミニレクチャーがあります

お問い合わせ 生きがいしごとサポートセンター(ワラビー) お申し込み TEL 078-841-0387 担当:狩野・岡本

会員大交流会のご案内

会員のみなさまにおかれましては、CS 神戸の活動にご支援を賜りまして誠にありがとうございます。日頃の感謝を込めまして、今年もイヤーエンド・パーティ「会員大交流会」を開催したいと思います。お申し込み、お待ちしております!

日 時 12月21日(火) 17:45~20:00

会 場 レストラン "ボーネ" 生活文化センター2階 JR 住吉駅 徒歩5分 (昨年と同会場)

対象 正会員、賛助会員、ボランティア、スタッフ 参加費 1,000円

※ビンゴ大会用のプレゼント(500円程度)をお持ちください。特に購入したものでなくても結構です。

会場や食事の手配の都合により、誠に勝手ながら<u>先着 60 名</u> 様限定とさせていただきます。事前のお申し込みをお願いします。追って事務局よりご連絡いたします。



<お問い合わせ・お申し込み> TEL 078-841-0310 FAX 078-841-0312 飛田まで

カレンダーと手帳を集めています!

ギフト・オン・ハート・カレンダープロジェクト

(実施期間:2010年12月~2011年1月)

神戸の復興住宅の高齢化率は 40~50%に上り、社会 との接点が少ないため、カレンダー類がなかなか手に入らないご家庭も多いのが現状です。2010 年のカレンダーをお届けした際も、大変喜んでいただき、12月に入ると、「今年も楽しみに待っているのでよろしくお願いします」という声がたくさん寄せられています。

現在、昨年ご協力いただいた企業や各種団体の方々にカレンダー・手帳類の寄贈をお願いしています。そのほかの方で寄贈いただける方がありましたら、是非お願いいたします。同時に、配達のお手伝いをして下さるボランティアの方も募集しています。



収集期間:

年内は 12/24(金)まで、年明けは 1/5(水)~1/17(月)まで (担当: 朴京守)

会費・寄付・寄贈をいただき、 誠にありがとうございました

(期間 10 年 7/26~10 年 10/20、いずれも順不同・敬称略) ※トータルケアシステムは別枠で取扱っています。

【会費】

岡本仁宏、見磯明、與口修、坂本勇夫、原田早恵子、 山本好克、於瀬昌樹、荻野俊子、芝泰、大和三重、 上村隆夫、NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ、関西学院大学法学部 【寄付】

<一般寄付> 中村順子、梅木利恵、狩野未来、村上 義弘、国枝哲男、飛田敦子、辻井順子、山本好克、 上村隆夫、家城裕之

く近ちゃん基金> 荻野俊子、菅祥明

2010年度の会費未納の会員さま、新規入会ご希望の方へ

CS神戸の市民活動の応援を、引き続きよろしくお願いいたします。機関誌の定期配送や関係図書の割引などの特典があります。年末には、会員大交流会も予定しています。

【会 費】**個人会員** 3,000円/年 **団体会員** 10,000円/年

【振込先】 **名義** NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 **郵便振替口座** 00950-2-144205

編集後記

機関誌の担当だった梅木さんが退職され、紆余曲折を経て(?)、編集の仕事が回ってきました。「ぎょっ」とか「うわ」とか「きゃぁ~」とか感嘆詞を連発しながら、なんとか61号が出来上がりました。 退職者が多かった9月末でしたが、また新たなスタッフをお迎えし、いつもどおりの賑やかな事務所となっています。(A)